

福井大学学術交流協定校への派遣留学（交換留学）月例報告書（6月分）

留学先：マカオ大学

氏名：坂井穂花

6月は5日間ほどの旅行とマカオ滞在で過ごしました。旅行の前に、日帰りで、マカオのすぐ北東に広がっている中国の都市、珠海市に中国人の友達がいるので遊びに行きました。ほぼすべて友達にお任せで楽しみました。中国に入国するための、ボーダーに一人でカジノの無料シャトルバスで行くのは初めてで、少し不安でしたが、無事友達と合流できました。一人で何の滞りもなくスムーズに行けたので我ながら少し成長を感じました… その日、珠海市は残念ながら曇りでどんよりしていて、写真もあまり生えなくなって、マカオと同様に湿度も高かったのが大変でしたが、十分楽しむことができました。中国のランチ、“喝早茶”として、お茶を飲んでゆったり楽しみながら食べるスタイルで、あんまんやシュウマイ、エビのダンプリングと合わせてお粥を食べました。あまり中国本土の食文化には詳しくなかったため、メニューや食べ方について教えてもらいました。たまに店員さんが話している中国語を聞き取れるときがあるので、その時は少しうれしくなりました。友達にも少し中国語を覚えてもらいながら、太陽と月をイメージしたコンサートホール、“日月貝”に行ったり、海辺にある珠海漁女の像を見たり、友達の家、近くのショッピングモールに行ったりしました。移動は基本、バスでしたが、中国のバスはマカオと違い、交通系電子マネーのカードではなく、QRコー

ドかキーホルダーをスキャンして運賃を支払うので、その違いに感動しました。食べた料理など、すべてが中国語で書かれているのですごく勉強になる一日になりました。マカオから近くて一時間ほどで着くので、来学期もまたその友達と一緒に珠海に行きたいと思います。

五日間の旅行では、マレーシアとシンガポールに行ってきました。その旅行の感想を交えつつ、マカオを含めて、私がこれまで行ったことのある東南アジアの国（マカオ、香港、フィリピン、マレーシア、シンガポール、タイ）を雰囲気、治安、過ごしやすさなどの観点から比較したいと思います。まず、雰囲気の間では、タイ、マレーシア、フィリピンはざっくりまとめるとおおらかな国民性で、クラブなどを利用したとき、飲食店の接客態度に、観光客にもすごく優しい雰囲気を感じました。それとは対照的に、マカオで過ごしていると、差別はないですが、店員の接客態度やサービスの質が極端に悪く、少し突き放されるような雰囲気を感じてしまいます。雰囲気とも関連して、香港、フィリピン、マレーシア、シンガポールでは、公用語に英語が含まれているので、英語が通じて、過ごしていくのには不自由がありません。しかし、マカオは公用語に英語が入っておらず、日本人の見た目は中国人と似ていて違いが判らないので、いつも中国語か広東語で話しかけられます。対策のしようがなく、仕方のないことなのですが、中国人ではなく、日本人だというアイデンティティが失われそうになるのでむしゃくしゃした気持ちになります。マカオは治安が良く、安全面では心配することはないのですが、

言語の面では圧倒的に香港、フィリピン、マレーシア、シンガポールの方が過ごしやす
いと改めて実感しました。



珠海のコンサートホール、“日月貝”



マレーシアのブルーモスク